

言語文化×英語 教科横断型授業
～ 英訳を通して『羅生門』を読み解く ～
振り返り

市立札幌藻岩高等学校 対馬光揮

1. 育成を目指していた学習指導要領に基づく国語科の能力

育成される能力 (※1)	a	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する力。	知識技能 思考判断 表現	(1)	(工)
	b	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する力。		(2)	(イ)
	c	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える力。		B	(ア)
	d	作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する力。		読	(イ)
	e	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のもの見方、感じ方、考え方を深める力。		む	(オ)

2. 生徒の振り返り

文脈	1	最後の動画でも話していたように日本語を英語に直すと意味が違ってくる場合があるということを改めて学んだ。また、同じ日本語でも様々な意味として読み取ることができるとその前後の文や伝え方はとても大事だなと思った。
	2	一つの言葉を訳すだけでも何通りもあって大変だった。日本語は曖昧な言い方が多いので色々な解釈がしやすいけれど、日本語に比べると英語は曖昧な表現が少ないように感じ、日本語で感じたニュアンスをすべて英語で表すのは難しかった。
言語文化の 特質・関係	3	今回の授業を通して、言語やその特有の言い回しのもつ役割について実感できた。それ故に、言語によって捉えられる解釈に違いが出てくることが面白いと思った。
	4	日本語では一言で表すことができて、英語では自分の解釈を加えて表さなければいけないなど、言語ごとの表し方の違いを感じる事ができた。英語は自分の意志をはっきり伝えるのに適した言語のようで、きっぱりしているアメリカなどの人々の性格が現れているなどと思う。それに対し日本語は、細かく曖昧な言語だそう。これも几帳面な日本人の性格にあっているなど思っていたが、主語などの省略も多い言語なので難しいところだとも感じた。
	5	今回の授業では受ける前は日本語と英語は全く違うもので比較しようがないものだと割り切っていたが授業を通して英訳をしようとする日本語の意味をしっかりと理解しなければならぬ。英語ではこういう意味だが日本語ではこういう意味になったり英語と日本語は密接に関わりを持っているということを学ぶことができた。それを今後も日本語と英語の関わりやつながりを意識していきたいと思う。
的確な読解	6	今回の授業で、自力で日本語を英語に翻訳することで、より文章内容に対する理解を深められ、登場人物がどのような心情でその言葉を使ったのかよりわかりやすくなった。このように、違う言語の視点から見てみるとより内容が頭に入ってきて、文章のめり込むことができることをこの授業で学べた。また、それを他者と共有することで、より理解を深められることもあった。他校の先生の意見も収集したことかとてもすごいと思った。英訳には、本文の流れや、登場人物の心情も考えなければ良い英訳はできないということも学んだ。
	7	「多分」や「きっと」とみたいな細かい違いを英語で表現するのが難しく直訳では意味が変わってしまうので適した英文を考えるのが難しかった。また英訳の際に本文の内容理解がとてめめられたので理解度が上がった。
解釈	8	下人についての心情や時代背景だけでその物語を終わらせるのではなく、一文要約や英語などを駆使してその物語を読み解くことで、理解が深まったし、色々な考え方ができるようになったのでとても良かったなと思いました。
	9	日本語で書く「きっと、そうか」のたつた7文字の英訳をするにあたって、日本語を英訳することの他にたくさん学びがあると感じました。日本語と英語の持つニュアンスの違いから生まれる表現の方法の違いから、翻訳の数の可能性を感じたし、言い換えようとするほどに下人はどんな意図でいったのだろうか。この流れから心情はどんなものなのだろうか。さつには、多分というニュアンスと本当かという明確なニュアンスのどちらだろうか。と疑問推測の繰り返しで下人や作品に対する解釈の深みが増したと感じました。同じ日本人でも解釈が違えば翻訳も変わり、そこがまた面白いと感じました。
	10	一人一人に違う読み取り方があったけれど、どれもすごく納得できるものだなと感じました。日本語の話を英語に訳したことは今までなかったけれど、訳をしようとすることで表現の意図などを考えるきっかけになり、解釈の仕方が広がっていくことがすごく面白く感じました。
もの見方 感じ方 考え方	11	国語と英語は言語も違うので結びつくところなんて、あんまりないだろうな一と思いつつも最初は授業を受けていたが、グループで訳を考えていく過程で自分の意見の幅も更に広がり、かつ英語と日本語を上手く結びつけることで色々な感じ方も出来るんだなと凄く納得しました。そして何より凄く楽しかったです。
	12	グループ内にも他のグループにも自分と全く同じ考えの人がいないというのは当たり前なことだと思うが、たつた5文字の言葉でここまで解釈が違うのかと思われ、楽しかったです。
	13	たつた一言の英訳でもその言葉の意味を文章からそれぞれの解釈で拾っており、意見の違いが多かったが、全てに納得することができ、答えは一つではないということがよく分かり、自分の視野が広がったように感じた。
教科横断 の意義	14	ディスカッションをする時、最終的には英訳をするということで「きっと、そうか」を詳しく言語化することができました。言語化するとき、日本語は言葉のニュアンスが少しでも違うと意味が変わってしまうことを実感しました。ディスカッションでは一人ひとり意見や考えが違うので、みんなが納得する意見を作るまでに議題についていつのまにか深められており、とても良い学びになっていると感じます。今日は、国語の授業ですが英語も使っていました。ある一つの教科でも様々な学問の知識を使うと、考えを深められたり新たな発見があるので、様々な学問を学ぶ意味を感じられる授業でした。
	15	今回の授業での感想はまず、このようなあまり経験をしていないある授業を違う教科も用いて学んでいくということがとてもおもしろく、いつも違う感じで勉強できたので楽しかったです。今回の授業では羅生門を英語も使って学んでいったので2つの勉強になり、また、様々な人と交流をしていき文の読み取り方や考え方を共有していったため、様々なもの見方が養うというのを学び、とてもいい授業でいい勉強をできたなと思いました。
楽しさ 粘り強さ	16	単刀直入に言うとも面白かった授業だと考えました。自分とは異なる視点から様々な意見交換を行い、新しい発見ができたのでとてもいい経験と感じた授業でした。
	17	日本語の「きっと、そうか」の意味を日本語で振り返るのはやっても他言語で考えるのは初めて面白かったが、慣れないことばかりでうまく言語化できなかったのが悔しい。個人的には、「どのように言った」のかがポイントで、それによって長さとか言葉選びとかが変わってくるかなと思っていた。
	18	「きっと、そうか」という短いセリフを英訳するために下人の感情や発言の意図を深く考えたり楽しかった。普通に読むだけでは体験できないことができたのが良かった。とても面白いし、どうの短いセリフを英訳するに思っていると思うとすごく一言一言が大切なものと思えた。
	19	下人のたつた一言「きっと、そうか。」でこんなに英語での訳し方、人の感じ方があってそれぞれに納得できる理由もあってすごかったのしかった。先生方のような英語のプロになってくると表現の仕方がひろがって、羨ましく思った。
	20	今回グループで英訳するにあたって下人の心情について深く深く掘り下げながら意見の交換や疑問の共有を行うことができた。また他のグループや先生方の英訳を見て色々な表現方法があり自分の視野になかったことも発見する事ができてとても学びにもなり色々な表現があるのかワクワクして楽しみながら授業を進めることができました。自分だけでは考えが及ばないことでグループワークを行うことで様々な意見交換ができ新たな疑問も生まれ知識の幅がどんどん広がっていくことを実感したので今後もグループワークを行う時には積極的に参加しようと思いました。とても楽しい時間でした。
協働学習 の意義	21	グループで英訳を考えてみて、似たような考えを持っている人でも内容を詳しく聞いてみたら、微妙に考え方が違うこともありそういう考え方もあったのかと気付きが多い授業だったと思います。英訳はする人でもかなり訳のパターンが違ったので色々な考えを聞いてとても楽しかったです。
	22	最初はなにからはじめればいいのか分からず、直訳すればそれでいいと思っていました。しかし、この授業では訳すことではなく、どのような意図を持って表現法を選択していくかが大切だと理解しました。そこから、下人の発言の意図を仲間と共通認識させ、仲間と知恵を出し合いながら結果的に自分たちにとって良い答えを導き出すことができ、達成感と満足感がありました。
	23	グループでやったことで、日本語→英語ではなく、日本語→日本語→英語という順番で考えたり、問いかけにしようとか、一人だったら考えつかないことたくさん面白かったです。
	24	今回の授業で、他の人の意見を沢山聞いて「あ、そういう解釈もあるのか」と驚かされました。他の人の視点を理解し、沢山の答えを出し、それらを比較することで、洗練された答えが出るのではと感じました。
	25	人によっても、国によっても言葉の捉え方はおそらく違うと思いました。相手の伝えたいことを聞く場面で、そのような違いが起きることはすごい面白く感じました。例えば、直訳するだけの人もいたり、内容深く訳したりする人もいました。人によって色々な考え方があり、多様性がありました。
他者との 関わりから 自己を 見つめる	26	今回の授業で、沢山の考え方を学びました。同じお題だとしてもそのお題についてどのように考えるかは個人個人なのだと改めて気づくことができました。また、そのような異なる考えを持つ人達と交流することで、自分にはなかった考えに気づき、視野を広げることができました。また、同じ意見の人とも交流して、ここまで深く考えられなかったなと自分の考えをもう一度見つめることで、自分自身も変わったなと感じました。
	27	今回の授業を通して様々な視点で自分なりの解釈をする楽しさや他者の意見を参考に自分の視点を広げていく重要さに気づきました。「きっと、そうか。」という短いセリフの中でもたくさんの解釈の仕方があったり、それを英訳として表現する上でどのような文にしたら良いかなど、この短いセリフからここまで深く考えることができることに驚きを感じていました。一見つながりがないように思える英語と羅生門が複雑に絡み合っていて、考えたり意見を共有したりすることがとても楽しかったです。これからもこのように考えたり共有したりする楽しさを忘れずに取り組んでいきたいと思いました。
	28	英訳しようとするだけでその文章がどんな意味なのか深く考えることが出来た。人によって解釈の仕方が全然違うのも面白かったし、その解釈の違いによってさらに自分の考えの幅を広げることが出来た。
今後の学習	29	英語のテストの長文読解等は簡単にすることができるのに、物語を違う言語に訳すことはこんなに難しいものなのだと実感した。又吉さんの言っていた線の幅をさらに広げることができるようにこれからも言語の学びを止めないでいきたいと考えた。
	30	今まで複数の教科が合わさった授業をやったことがなくて、どんなふうになるのかわかりませんでした。「きっと、そうか。」の英訳を考える上で、その発言に込められた意図や心情などを深く考えるきっかけになったと思います。考えてみると短い単語なのに様々な可能性が見えてきてもっと深く考えたいと思うことにも繋がったと思います。また教科横断型の授業をやりたいと思いました。
	31	たつた10文字でも、「きっと」とがなにを指しているのか、「そうか」の使い方も、人によって捉え方は様々なんだなというふうに感じました。そして、クラスメイトや大人、自分では思いつかなかった捉え方を知り、すごく参考になったのと同時に短い刺激にもなりました。また、芥川龍之介自身はどのような考えでこのセリフを配置し、彼自身はどう捉えていたのかも気になりました。
	32	古文を英訳するという今までやった事ないことに今回挑戦してみても直訳ではなく前後の文から考えて英訳をするという普段でも中々やらないことをやってみて英語の授業などで上手く活用出来たらと思います。
	33	日本語と英語でニュアンスだったり印象の差を出せることに驚いた。枕草子などのほかの英訳されている文学作品も読んでみて日本語と比べてみたいと思った。